

■ 平成 19 年度事業概要 ■

I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

購入資料受入総数（図書・雑誌及び特別資料等）	1,069 点
寄贈資料受入総数（同上）	2,751 点
計	3,820 点

整理・保存 収蔵資料のコンピュータ入力並びに収蔵資料の寄贈・寄託目録作成等。

収蔵資料データベースの公開・検索システムの構築。

閲覧 利用者 延べ 3,922 人

II 展覧会事業

(1) 展覧会開催事業

注：「区分」欄の無印は道負担金事業、※印は財団企画事業。

区分	事業名	実施時期 (日数)	観覧者数 (人)	展覧会の概要
	常設展 北海道の文学	通年 (302 日間)	10,582	北海道の文学を時系列に従いつつジャンル別に構成し、解説している。ビジュアルな展示スタイルを主眼に置き、直筆原稿・遺品・初版本・書簡・写真などの貴重な資料を 1,350 点公開している。(◎展示構成を次頁に掲載。)
	特別企画展 太宰治の青春 津島修治であったころ	6/30(土) ～ 8/22(水) (46 日間)	4,462	太宰治が作家になる以前の、誕生から青年期までに焦点を当て、企画構成した。生地青森県にある本道初公開の学生時代のノートのほか、貴重資料を中心に展示することにより、太宰ファンのみならず、太宰を読んでいる方にも興味を抱かせる展示となった。
	特別企画展 目で識る川柳 250 年展 併設：北海道川柳の流れ	9/22(土) ～ 11/7(水) (41 日間)	2,086	北海道川柳連盟、川柳 250 年実行委員会との共催により、江戸から今日に至る川柳の歩みを貴重な歴史資料等により紹介、その伝統と特色を目で識り楽しむことのできる展示となった。「北海道川柳の流れ」のコーナーが併設され、川柳王国といわれる本道川柳界を築きあげた先人の足跡を回顧する好機となった。
	企画展 父・船山馨の DNA 船山滋生の彫刻と挿画	4/28(土) ～ 6/17(日) (44 日間)	1,457	彫刻家・船山滋生の彫刻作品と絵画・挿画作品の展示を主に、小説家の父・船山馨の文学資料と編集者の兄・船山真之の出版資料を加え、親から子へ受け継がれた芸術探求の資質とそれぞれの創造の世界を多角的に紹介、美術と文学をめぐる芸術への理解を深める契機となった。
	企画展 遊んで学んだ、あの時代。 新発見！100 年前の 児童雑誌	11/17(土) ～ 1/14(月) (45 日間)	2,398	函館市中央図書館収蔵の明治～昭和初期までの児童雑誌を中心に、北海道で発行されたものを併せて紹介した。散逸の激しい資料とされる児童雑誌を多く展示することができた。児童雑誌の面白さと道内発行雑誌の存在を知ってもらうことができ、研究者にも情報提供を促す契機となった。
※	企画展 探求者の魂 山田昭夫の書齋から	2/16(土) ～ 3/23(日) (32 日間)	786	元藤女子大学教授で有島武郎研究の第一人者であった山田昭夫の足跡を、当館が所蔵する山田資料をメインにして紹介した。その資料からは、実直な仕事ぶりや人柄を垣間見ることができ、今後の北海道における文学研究・活動に示唆を与えるものとなった。
貸館	石川直樹写真展 森と氷河の VOID	4/11(水) ～ 4/18(水) (7 日間)	117	主催、とかちのアートを考える会。冒険写真家石川直樹がニュージーランドの先住民の聖地を訪ね、その深い原生の密林を主題として撮影した写真作品が紹介された。
貸館	アサヒ・アート・ フェスティバル 田園都市のコンテン ポラリーアート 2007-2008 雪と風の器	1/24(木) ～ 2/3(日) (10 日間)	246	主催、とかちのアートを考える会。現代アートの多彩で多面的な分野を横断しながら、道内を拠点に活動しているアーティスト 6 人の「創造」の世界が紹介された。

〈常設展特設コーナー設置〉 8 月 作家・澤田誠一追悼コーナー (19 年 6 月 5 日没)

(2) 常設展の展示構成

〈北海道の文学、その歴史〉〔神谷忠孝・平原一良〕

◆20世紀への胎動 久保栄「五稜郭血書全5幕」自筆原稿、北方謙三「林蔵の貌」自筆原稿、高倉新一郎『札幌農学校』 ◆助走期の苦闘 有島武郎・木田金次郎宛書簡、武者小路実篤「武郎さんと僕」自筆原稿、雑誌「白樺」 ◆漂泊と彷徨 国木田独歩「欺かざるの記」複製原稿、幸田露伴「二日物語 此一日」複製原稿、石川啄木「雲は天才である」複製原稿 ◆道産子作家の誕生 武林無想庵「アルバム」自筆原稿、森田たま「きもの博士」自筆原稿、中戸川吉二・久米艶子宛書簡 ◆逆流のさなかで 小林多喜二「故里の顔」複製原稿、久保栄「火山灰地」自筆原稿、本庄陸男「逆流」自筆原稿 ◆モダニズムの台頭 伊藤整「文学的青春伝」自筆原稿、中村武羅夫自筆色紙、岡田三郎「かぼちゃ談義」自筆原稿 ◆戦火の中で 辻村もと子「馬追原野」自筆原稿、石塚喜久三「花の海」自筆原稿、坂本直行自筆カット原画 ◆復興と再生 畔柳二美「こぶしの花の咲くころ」自筆原稿、風巻景次郎「札幌地理学」複製原稿、船山馨遺品 ◆成長期の精華 雑誌「北海文学」（原田康子「挽歌」掲載）、和田芳恵「五十年ぶりの帰郷」自筆原稿、李恢成自筆色紙、三浦綾子短冊（三浦光世筆） ◆変転する現代 高橋揆一郎『『伸子』覚え書き』自筆原稿、吉村昭「赤い人」自筆原稿、渡辺淳一「リラ冷えの街」自筆原稿

〈北海道の詩〉〔原子修〕

◆「現代の詩」の創造に挑んだ〈風の詩人〉たち 吉田一穂「魚歌」自筆扁額、小熊秀雄画「裸婦」 ◆「現代の詩」を北の大地に根づかせた〈土の詩人〉たち 更科源蔵「河童十二ヶ月」複製原稿、和田徹三「命」自筆原稿、河邨文一郎「オホーツク」自筆原稿 ◆「現代の詩」の新しい可能性を求めて 原子修自筆色紙

〈北海道の短歌〉〔山名康郎〕

◆北海道歌壇の動き 山下秀之助、酒井廣治、小田観螢、中城ふみ子ほか ◆来道歌人 斎藤茂吉、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤史、宮柊二ほか ◆口語短歌 鳴海要吉、石川啄木ほか ◆アイヌの歌人 バチラー八重子、遠星北斗、森竹竹市ほか

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

◆北方俳句の夜明け 松窓乙二、河東碧梧桐、牛島勝六、高浜虚子、長谷川零餘子、臼田亜浪、石田雨園子、青木郭公ほか ◆俳句近代化への潮流 荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか ◆花ひらく北の俳句 斎藤玄、寺田京子、比良暮雪ほか ◆俳句の現代 比良暮雪、佐々木丁冬、鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈アイヌの口承文芸〉〔青柳文吉〕

金田一京助、知里真志保、久保寺逸彦、金成マツ、知里幸恵、萱野茂

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

◆明治～昭和前期 鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西嶋〇丸、田中五呂八ほか ◆昭和後期～平成7年 西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子 ◆北海道の川柳社 道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介。

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

◆明治～昭和20年代 伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか ◆昭和30年代 石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか ◆昭和40年代以降 加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕

夏堀正元、吉村昭、李恢成、寒川光太郎ほか

III 教育普及事業

注：「事業区分」の無印は道負担金事業、※印は財団企画事業。

事業区分	事業名	実施時期	観覧(参加)者 実績数(人)	備考	
	文芸対談	「芸術を求めるころ」(講師：船山滋生氏、國松明日香氏)	4/28(土)	63	
	トークセッション	「太宰治の青春時代」(講師：竹森茂裕氏、相馬明文氏)	6/30(土)	92	財団法人北海道教職員厚生会と共催
	文芸講演会	「川柳の視野—250年間に川柳が獲得したもの」(講師：尾藤一泉氏)	9/22(土)	109	
	文芸セミナー	「近代日本の児童雑誌—その歴史と子どもの生活」(講師：上笹一郎氏)	11/24(土)	42	
※	文芸セミナー	「夢を紡いだ文学資料」(講師：平原一良氏)	2/23(土)	33	
※	連続朗読会	「太宰治作品を読む」(朗読：館野直光氏、鎌田紳爾氏、村上里和氏)	7/13(金)、7/27(金)、 8/4(土)	127	財団法人北海道教職員厚生会と共催
※	ウィークエンド・カレッジ	「文学講座」ほか6分野、前期・後期合わせて延べ7講座	前期4講座延べ35回 後期3講座延べ26回	403	
※	ロビーコンサート	札幌交響楽団員による弦楽四重奏(ヴァイオリン・大平まゆみ氏ほか)	11/4(日)	46	
	ファミリー文学館	「文字とあそぶ『ほっ』展」、ワークショップ、短歌コンテスト	9/1(土)～9/13(木) (11日間)	2,146	
※	わくわくこどもランド	手作り教室、絵本の読み聞かせ、楽器演奏、紙芝居など15事業	年度間 15回	1,034	
	映画鑑賞会	「真白き富士の嶺」(原作：太宰治、1963年、日活)	5/27(日)、6/10(日)	164	
	映画鑑賞会	「グッドバイ」(原作：太宰治、1949年、東宝)	8/5(日)	112	
	映画鑑賞会	「維新の篝火」(原作：池波正太郎、1961年、東映)	11/25(日)	99	
	映画鑑賞会	「絶唱」(原作：大江賢次、1966年、日活)	3/2(日)	94	
	文学道場	「文学をめざすキミたちのために」(講師：佐野良二氏、柄刀一氏)	8/1(水)、8/2(木)、 8/3(金)	46	
	「文字・活字文化振興事業」 文芸セミナー	「北海道川柳の流れ」(講師：斎藤大雄氏)	10/30(火)	87	
※	市町村連携事業 「文学館出前講座」	「作家は問う—文学・自然・環境」(講師：加藤幸子氏ほか)	11/3(土) ニセコ町有島記念館	143	財団法人北海道教職員厚生会と共催
		「宮澤賢治と妹トシを語る」(講師：斉藤征義氏、松岡義和氏)	11/27(火) 大空町女満別図書館	27	財団法人北海道教職員厚生会と共催
		「風土と文学及び演劇について」(講師：森一生氏)	3/8(土)、3/9(日) 登別明日中等教育学校	80	財団法人北海道教職員厚生会と共催
	川柳展追加事業	「中七川柳」(選者：斎藤大雄氏、浪越靖政氏、平原一良氏)	9/22(土)～10/28(日) 審査日10/31(水)	530	
	川柳展追加事業	「全国川柳大会」(講演：十五世川柳・脇屋川柳氏)	10/7(日) Hライフオート札幌	128	
	川柳展追加事業	パネルディスカッション「これからの川柳」(コーディネーター：岡崎守氏)	10/7(日)	86	
※	文化施設連携事業	「カルチャーナイト2007」	7/20(金)	261	
※	小学生向け事業	「文学館たんけんクイズ」	通年(302日間)	491	
	文学資料の利用	閲覧室での研究、調査、読書等	通年(302日間)	3,922	
貸館	文学愛好団体の活動	文学愛好団体が講堂利用	利用日数—56日	1,520	
教育普及事業参加者 計				11,885	

Ⅳ 北海道文学に関する調査研究事業

- ① 特別企画展「太宰治の青春」関連資料調査
- ② 特別企画展「目で識る川柳 250 年展」関連資料調査
- ③ 企画展「船山滋生の彫刻と挿画」関連資料調査
- ④ 企画展「新発見！100 年前の児童雑誌」関連資料調査
- ⑤ 企画展「探求者の魂―山田昭夫の書齋から」関連資料調査
- ⑥ 特別企画展・企画展の図録作成に要する調査
- ⑦ 副読本「ふるさとを読む 北の人間 北の文学」の編集に関わる資料調査
- ⑧ 加藤多一関連資料調査
- ⑨ 吉増剛造関連資料調査
- ⑩ 岩井成昭関連資料調査
- ⑪ 加藤幸子関連資料調査
- ⑫ 八木義徳関連資料調査

Ⅴ 文学愛好団体等の活動に対する支援事業

次の団体の事業に対して、後援名義並びに主共催名義の使用を承認して支援した。

- ① 中川町教育委員会
「斎藤茂吉記念第 14 回中川町短歌フェスティバル」
(平成 19 年 6 月 1 日～7 月 20 日 中川町教育委員会)
- ② サハリン文学紀行実行委員会
「第 2 回サハリン文学紀行」
(平成 19 年 8 月 5 日～8 月 8 日 サハリン)
- ③ 北海道川柳連盟 (主管：札幌川柳社)
「川柳発祥 250 年平成 19 年北海道知事賞・札幌市長杯授賞北海道川柳大会」
(平成 19 年 7 月 8 日 ホテルノースシティー)
- ④ 新潮社、紀伊國屋書店
「池澤夏樹～トークと自作朗読の夕べ～」
(平成 19 年 5 月 11 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑤ 若狭弘樹
「ギターによるスペイン散文詩の世界」
(平成 19 年 10 月 10 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑥ (特定非営利活動法人) 絵本・児童文学研究センター
文化セミナー「野生動物の反乱」
(平成 19 年 11 月 18 日 小樽市民センター)
- ⑦ 「バイリンガル朗読とヴァイオリンの夕べ」実行委員会
「バイリンガル朗読とヴァイオリンの夕べ」
(平成 19 年 12 月 11 日 時計台ホール)

Ⅵ 啓発広報事業

- ① 施設案内、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナーちらし等を制作・発行。

- ② 「北海道文学館報」臨時号（4月17日）、第69号（6月15日）、第70号（9月20日）、第71号（11月13日）、第72号（2月14日）の編集発行。

Ⅶ 刊行物の刊行事業

- ① 特別企画展「太宰治の青春」図録の刊行。
- ② 企画展「船山滋生の彫刻と挿画」図録の刊行。
- ③ 企画展「新発見！100年前の児童雑誌」図録の刊行。
- ④ 企画展「探求者の魂―山田昭夫の書齋から」図録の刊行。
- ⑤ 平成18年度年報の刊行。
- ⑥ 副読本「ふるさとを読む 北の人間 北の文学」の刊行。
- ⑦ 北海道文学館叢書「詩集 登高」（長光太）の刊行。

Ⅷ その他の付帯事業

- ① 博物館学芸員実習生の受け入れ
博物館実務実習として平成19年5月から20年3月まで、次の10大学の25名を2週間毎に1名ずつ受け入れた（4名は1週間毎）。
東北学院大学1名、聖心女子大学2名、北海道大学2名、札幌学院大学3名、北海道東海大学3名、北海道教育大学札幌校2名、札幌大学2名、弘前大学1名、北翔大学8名、聖徳大学1名。
- ② 古書バザールの実施
平成19年4月～同20年3月、文学館ロビーで通年実施（古書バザール実行委員会）。